

行政視察報告

視察を実施しました。以下のとおり研修内容を報告します。

総務常任委員会

10月14日(火)富山県魚津市
「トイレトレーラー運用について」

魚津市は、令和6年にトイレトレーラーを導入しました。導入までの経緯、災害派遣実績、オペレーションシステム、平時の運用方法、災害ネットワークの参加についての説明を受けました。

委員の所見

いつ起こるか分からない災害の備えとして、魚津市のトイレトレーラーの常設方法、備蓄への貸出、災害支援等を参考に、佐野市独自の工夫で、最適なトイレトレーラーの運用が期待できると感じました。

10月15日(水)長野県小諸市
「移住定住促進を軸にした地域活性化に向けた連携に関する協定について」

小諸市は、株式会社アルシィコアと移住定住促進を軸とした連携協定を令和5年5月に締結しました。協定に至った経緯と協定内容の説明を受け、小諸市の現在の移住定住の取り組み及び締結による効果や、地域に及ぼす影響、問

題点などを研修しました。

委員の所見

本市においても、あらゆる機会を捉えて移住定住促進による人口の増加を図ることは重要で、同時に移住してくる「人」そのものを大切にすることが必要です。地域の起爆剤となるようなキーマンを戦略的に誘致することが重要であると感じました。



厚生常任委員会

10月14日(火)兵庫県相生市
「子育て応援施策11の鍵について」

子育て応援都市宣言をし、子育てしやすい環境を整え、子育て世代をターゲットに人口減少対策や定住促進を進めています。幼・小・中学校の給食費完全無料化等、事業は多岐にわたりますが、例えば、相生市内で結婚生活を始め、子どもが1人の場合、11の鍵支援額は約300万円になります。

委員の所見

「11の鍵」を開始した当初は、持続可能なか。高齢者福祉サービスが後退するのではないかと。等々、市民の反応は様々でしたが、集会等を通じて市民に粘り強く説明した結果、賛成の声が広がりました。また、子ども政策に対する市長の力強い思いから、給食費完全無料化を継続して、素晴らしい取り組みでした。

10月15日(水)愛知県豊田市
「豊田地域医療センター」「コミュニティプラザについて」

①地域から信頼され親しまれる、開かれた病院を目指した取り組みの推進や総合診療の充実②先進技術

を活用した地域DX・地域リハビリテーションの推進③在宅医療などの地域を支える人材育成の推進等、幅広い取り組みでした。

委員の所見

地域との関わりを大切にした地域医療のコミュニティ・ホスピタルであり、地元大手企業、地元医科大学、豊田市、地元医師会、そして地域医療センターによる産学官医の協力と連携の下、市民の皆さまへ、信頼され親しまれる様々な安心安全な医療を提供して、目指すべき地域医療の姿でした。



各常任委員会

市政の課題や先進事例の調査を行うため、他自治体への行政

経済文教常任委員会

10月29日(水)長野県長野市
「教育支援センターSasa LANDについて」

不登校児童生徒の増加に対応するため、旧長野市立二小小学校を分校を改修し、令和6年4月に教育支援センター「Sasa LAND」を開設しました。社会的自立支援、保護者支援、教職員研修を柱に、包括的な不登校支援を行っています。

委員の所見

長野市では、子どもと保護者を中心に、学校、Sasa LAND、民間施設等が連携し、多角的な不登校支援が行われていることが分かりました。校内支援センターづくりや教職員研修、メタバース活用などの取り組みを、本市への提案に活かしていきたいと感じます。

10月30日(木)岐阜県飛騨市
「薬草トレッジ構想推進プロジェクトについて」

飛騨市の薬草事業は、森林資源を生かし、24種の薬草を活用した、市民の健康づくりと地域活性化を目的に官民連携で推進しています。交流拠点や全国薬草フェスの開催、



商品開発(18事業61商品)などにより、「薬草のまち・飛騨市」を発信しています。

委員の所見

地域資源と人との結び付け、多くの市民が地域に誇りと愛着を持つて関わる全体的な取り組みの展開に感銘を受けました。数を追うのではなく、価値観に共感する人々との継続的な関係構築を重視する考え方も、本市の中山間地域活性化に非常に参考になりました。

建設常任委員会

10月20日(月)奈良県生駒市
「空き家対策について」

生駒市では、空き家を「地域資源と捉え、家主と活用者の想いをつなぐ「窓文不動産」や、行政・専門家・NPOが連携する空き家再生プラットフォームを構築しています。相談・成約実績も伸び、空き家減少と地域活性化を実現しています。

委員の所見

空き家を人と地域を再生する、媒介とする発想が革新的であり、心の交流を重視した独自の仕組みは高い効果も上げています。数字面の成果も明確で、地域コミュニティ形成、防災・景観維持にも寄与する持続可能なモデルと感じました。

10月21日(火)兵庫県姫路市
「姫路市ウォーカーカブ推進計画について」

姫路市では、ウォーカーカブ推進計画に基づき、歩きやすく滞在しやすい公共空間づくりを展開しています。大手前通りなどの整備や社会実験、官民連携イベントを通じて、回遊性向上と中心市街地のにぎわい創出を一体的に目指しています。



委員の所見

歩行者中心の都市設計を軸に、にぎわい・健康・観光を連動させる戦略性が際立っていました。市民参加型の社会実験や柔軟な道路活用が印象的で、ウォーカーカブが都市価値を総合的に高めることを実感し、地方都市の参考となる施策と評価できます。